

ふくろだいせき 5 袋田遺跡

所在地：勝山市芳野町2丁目1032番2

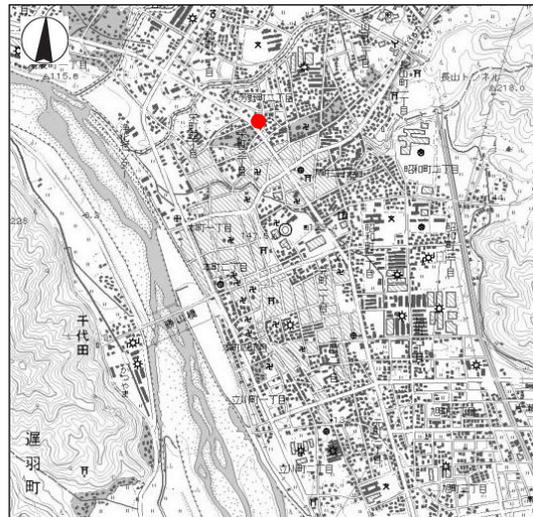
調査原因：物販店舗の建設

調査期間：令和3年8月

調査主体：勝山市教育委員会

調査面積：141.8 m²

時代：古墳時代



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 袋田遺跡は、平成30年(2018)に分布調査を実施し、勝山市役所を中心に北は芳野町2丁目、南が立川1丁目までの広い範囲で縄文時代から江戸時代の土器などが見つかったことにより新規登録されました。遺跡は、平成31年(2019)、文化庁が認定する「日本遺産」の構成文化財に登録された「七里壁」^{しちりかべ}沿いに分布し、九頭竜川の右岸の河岸段丘面に立地します。本調査は、勝山市教育委員会による2回目の調査事例となり、市域では調査事例が少ない古墳時代の集落跡が見つかったことから、貴重な発見となりました。調査地は、北に浄土寺川が流れる段丘面にあたることから、洪水などの被害がない安定した地理的環境に集落が形成されていたと考えられます。また、勝山市域の同時代の竪穴住居跡はこれまでに九頭竜川左岸の本郷北遺跡(鹿谷町)で見ついているだけですが、住居の構造を比較するとよく似ています。

主な遺構 店舗建設に伴う基礎工事の工事立会を実施中に発見しました。検出した遺構は、竪穴住居1棟だけでした。周囲に遺構が分布していないか範囲を広げて確認しましたが、発見には至りませんでした。竪穴住居は隅丸方形を呈し、1辺は6.5m、残存する深さは約0.2mを測ります。住居内の遺構は、柱穴2基、小穴6基です。



竪穴住居跡の全景(西から)

主な遺物 出土量はコンテナ箱数でいうと2箱程度です。遺物^{ほうがんそう}包含層からは土器が数点出土したのみで、ほとんどは竪穴住居が埋没した際に埋まった土の中からの出土です。時期は古墳時代初期で、器種は、甕・壺・高坏・鉢形土器が見つっています。貯蔵穴と想定される小穴1からは、一面に赤く塗られた小型壺が横たわり、つぶれた状態で見つかりました。この赤く塗られた小型壺は、市内で初めての出土事例です。この小型壺は、内面を薄く削りあげた後に丁寧になでています。また、底付近の内面は、使用頻度が高いことを物語るのか、とても摩耗していました。(藤本康司)



赤彩された小型壺（小穴1出土）



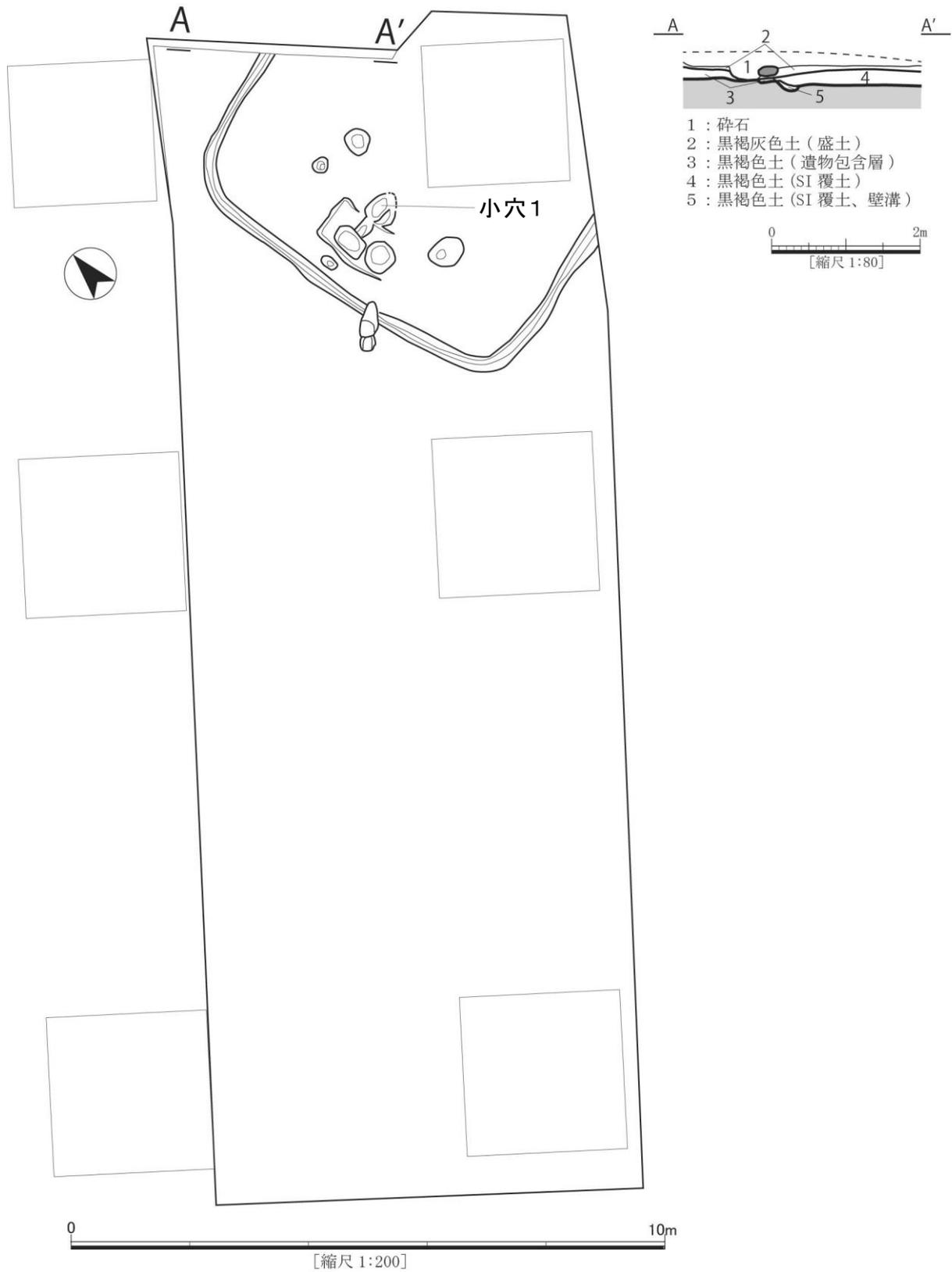
調査地の全景（東から）



竪穴住居跡の土層断面（西から）



竪穴住居跡の角 近景（北から）



第 1 図 調査地の平面図と竪穴住居跡の土層断面図



貯蔵穴と考えられる小穴群（西から）



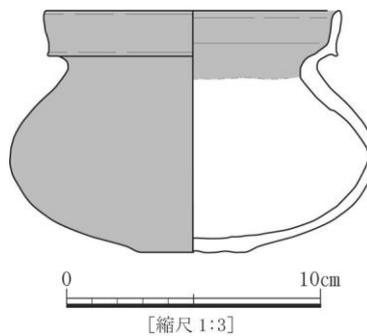
小型壺の出土状況【小穴1】（南から）



甕形土器の口縁部【竪穴住居跡より出土】



高坏形土器【竪穴住居跡より出土】



第2図 小型壺の実測図

第1表 小型壺の観察表

遺跡名	出土地点	種類	器種	口径	底径	高さ	焼成	胎土	備考
袋田遺跡	A-1 小穴1上・下層	土師質	小型壺	11.6cm	4.2cm	9.6cm	良好	精良	赤色塗布（外面～内面の頸部） 内面底面は使用状況によるのか摩耗